

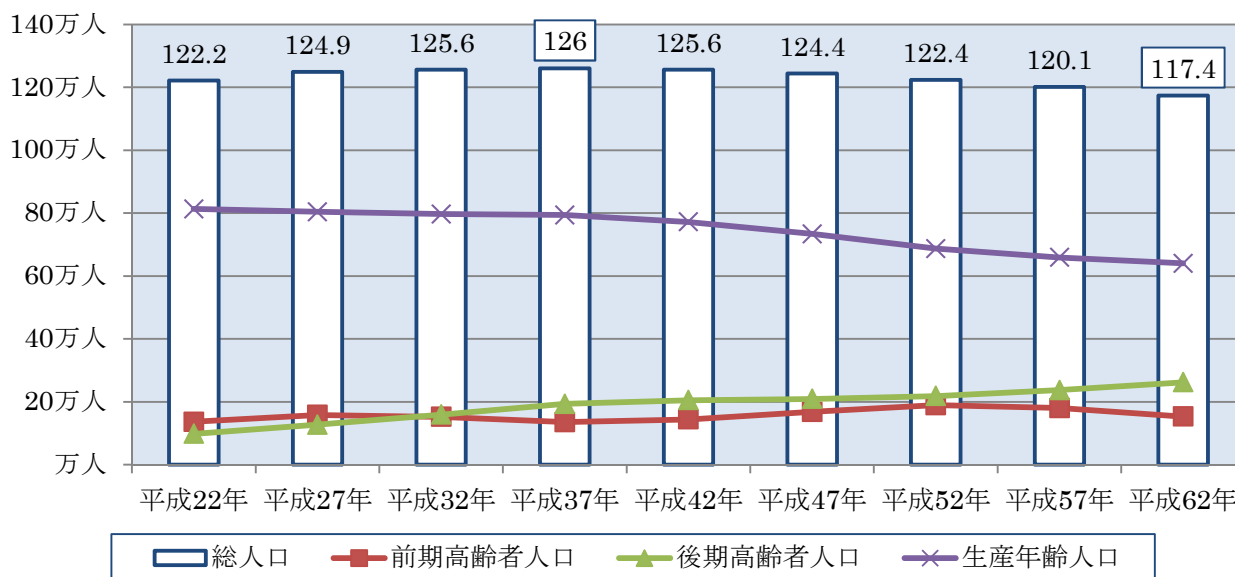
第2章 さいたま市の状況

1. 人口の見通し

○総人口の見通し（将来推計値）

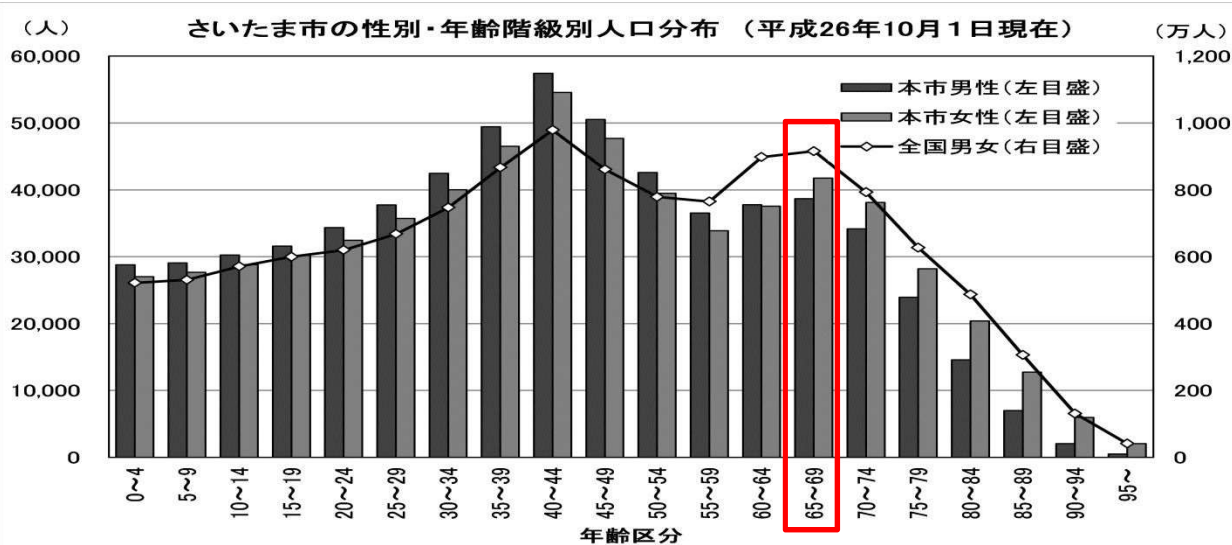
総人口のピークは、平成37年（2025）年頃の126.0万人で、その後減少に転じ、平成62（2050）年には、117.4万人まで減少する見通しです。

◆総人口と年齢区分別人口



出典：さいたま市総合振興計画後期基本計画より作成

◆性別・年齢階級別人口分布



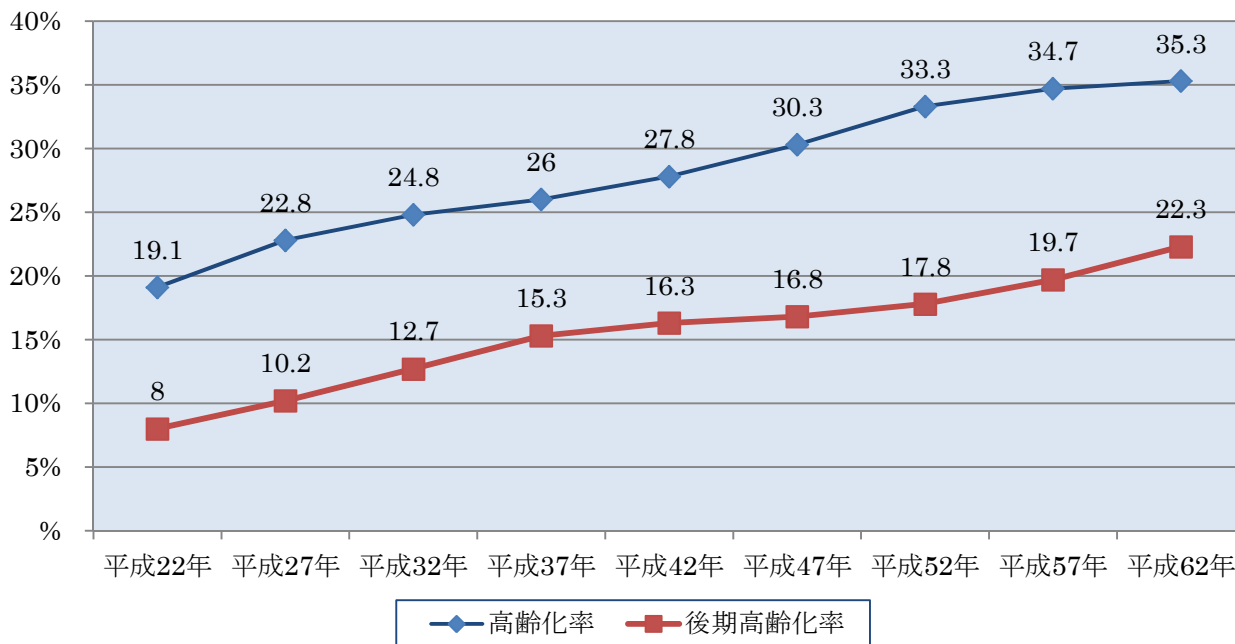
出典：さいたま市第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

2. 高齢化の見通し

○高齢化率の見通し

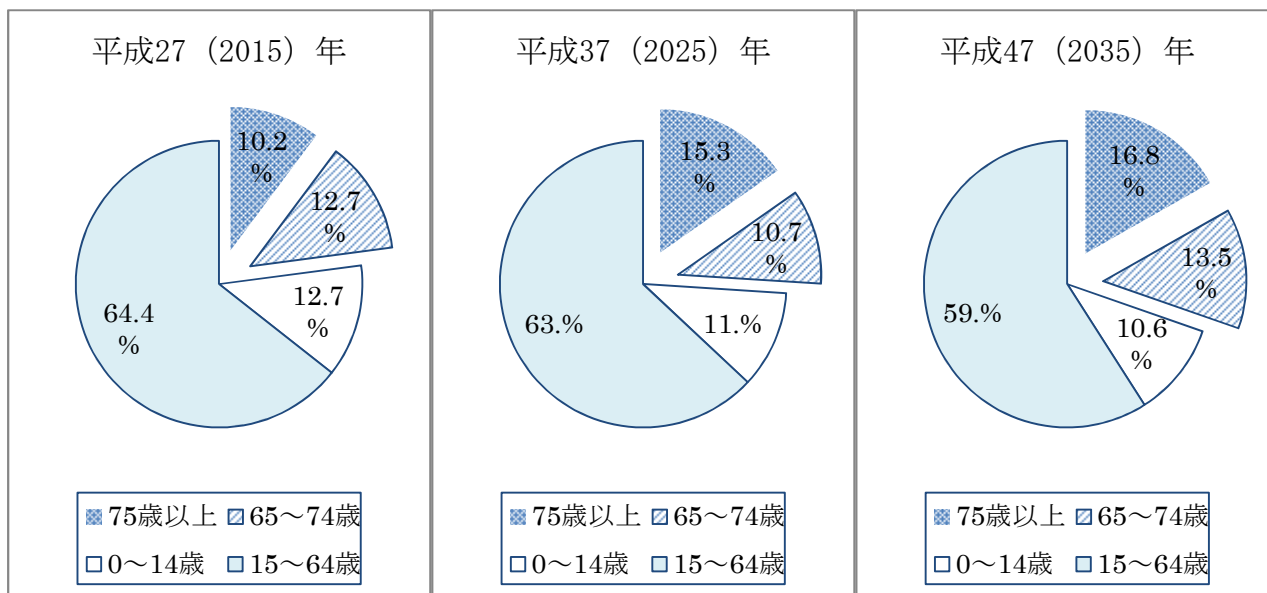
老年人口（65歳以上）は今後も増え続け、高齢化率は平成22（2010）年の19.1%から、平成32（2020）年には、24.8%に増加し、平成52（2040）年には3人に1人が高齢者となる見通しです。

◆高齢化率と後期高齢化率



出典：さいたま市総合振興計画後期基本計画より作成

◆年齢区分別人口（割合）



出典：さいたま市総合振興計画後期基本計画より作成

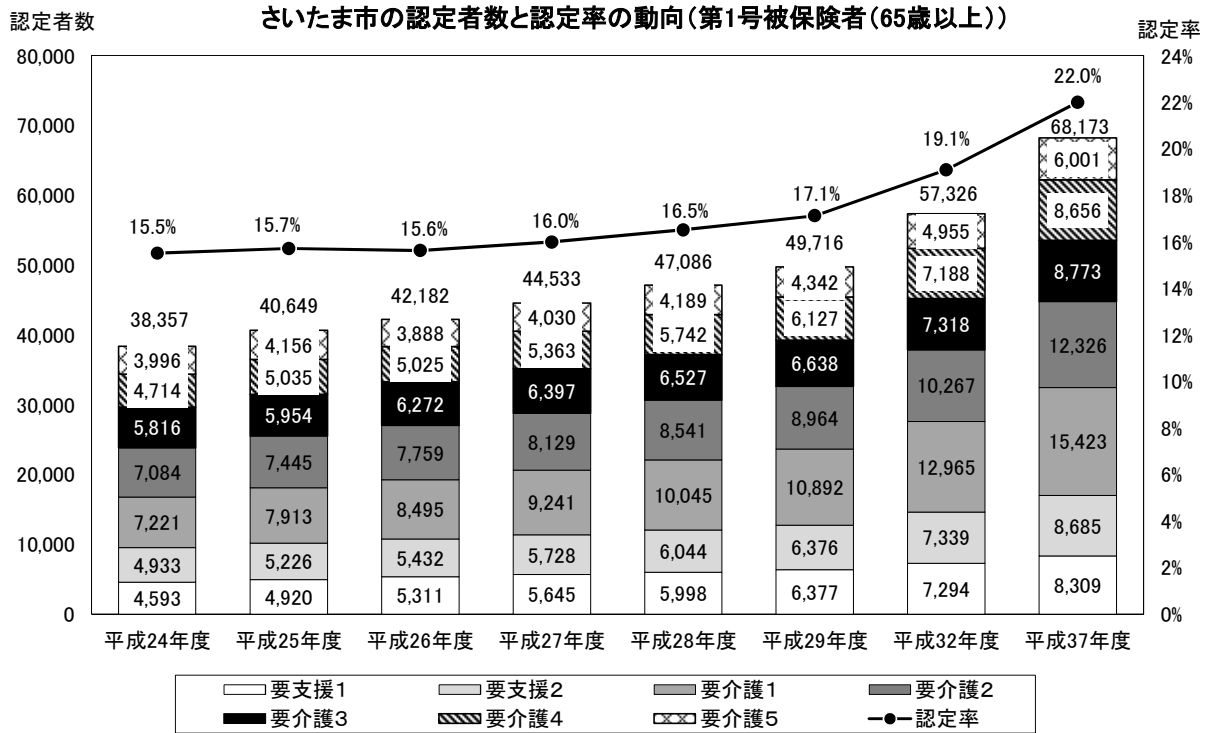
3. 要支援・要介護認定者数の状況

○要支援・要介護認定者数と認定率の動向

第1号被保険者（65歳以上）で要支援・要介護認定されている人の総数、認定率ともに、今後も増加が見込まれます。

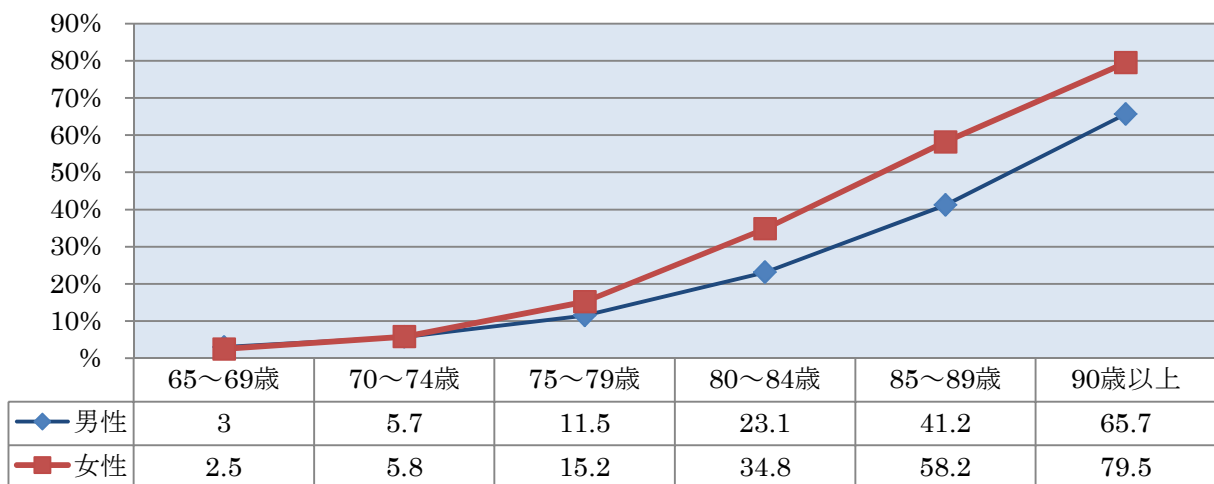
また、年齢階級別認定率では、65歳から69歳までは2.8%と少ないですが、75歳から79歳で13.5%、85歳から89歳までで52.2%と急増します。

◆認定者数と認定率



出典：さいたま市第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

◆性別、年齢階級別認定率（平成26年9月末時点）

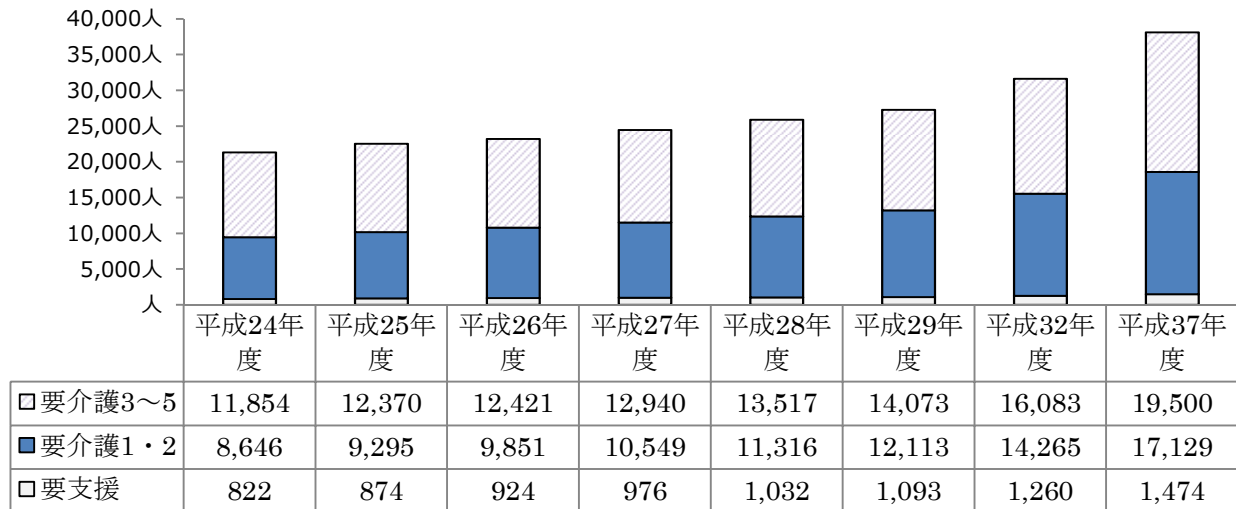


出典：さいたま市第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

4. 認知症高齢者の増加

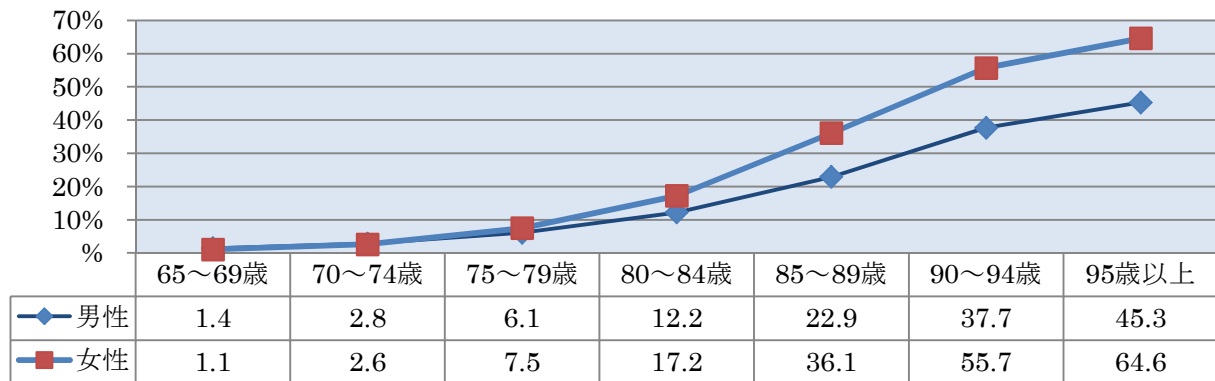
国の示した推計法に基づき、本市の認知症高齢者数の推移をみると、日常生活自立度がⅡ以上の認知症高齢者数は要支援、要介護1・2、要介護3～5ともに年々増加していくことが予想されます。

◆さいたま市の認知症高齢者有症要介護等認定者数



出典：さいたま市第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

◆性別、年齢別認知症有病率（日常生活自立度Ⅱ以上）



出典：さいたま市第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

認知症の自立度（概説）

自立：知的レベルの衰えはなく、生活上の問題は全くない。

Ⅰ：多少の物忘れはあるが生活は自立している。

Ⅱ：物忘れや精神的な症状が目立つが、指示や誘導により生活できる。

Ⅲ：物忘れや精神的な症状が目立ち、実際に手を貸さないと生活できない。

Ⅳ：一日を通して精神的な症状があり介護負担が非常に大きい。

M：Ⅳよりも悪化し精神科等での対応が必要。

5. 単身高齢者世帯や高齢者のみ世帯の増加

高齢化の進展により、高齢単独世帯数が増え、その約半分を後期高齢世帯数が占めると推測されています。



出典：さいたま市総合振興計画後期基本計画より作成

出典：さいたま市都市計画マスタープラン